

第50号

発行所
京都市中京区河原町三条
カトリック京都司教区
広報室 (Tel211-3768)
編集責任者 村上透磨
編集部 教理センター
田中司教認可

京都教区時報

今月の小教区の頁一園部教会

おめでとう五十周年

次々と金銀の祝い

去る五月二十二日、桑名教会でマークA・テニエン師の金祝賀会が市民ぐるみで行われた事を御存知の方もあろうかと思われるが一司祭の金祝がこの様に祝われる事は師の人の柄と共に市民のために尽していられる師の功績を伺えるものとして私達も大きな喜びと感謝の心を表わしたいと思う。



師が市民に最も感謝されている事は、伊勢湾台風の際に精力的な援助活動をされた事で

ある。神父さんから受けた御恩は今でも忘れられない」という人が今でも多く、せめても恩返しにと司祭叙階記念の外に桑名在任二十年、七十七才の誕生日を祝って下さる事になったものである。宣教師の精神に徹する師は日本に骨をうずめたいと云う程日本に特に桑名にほれこんでいられるのである。因みに師の略歴を紹介しよう。一九〇〇年五月十九日パーモントに生れ、一九二七年六月十九日司祭叙階二十五年間中国奥地で伝道活動を続けられ、その後共産軍に捕えられ投獄、洗脳教育を受けられたががんとして受けつけず、

出獄後「たった一人の抵抗」と云う体験記を書き上げられた。三十四年今の美しい桑名教会を建て、幼稚園も開設し、人々に親しまれていられる。一時大病を疾われ入院されたが今はお元気で御国の発展のため働いておられる。

テニエン師の司祭叙階金祝の祝いに更に銀祝の祝いをする諸師を抱く私達教区民の喜びは一しおなるものがある。私達は金銀の宝物をかねそなえている事になるからだ。何故ならその二十五年と云う年月は私達信徒の為に捧げられた年月であり、献身の日々であり、神の恵みを獲得し続けた時の積み重ねである。からだ。私達は諸師の労をねぎらい、その捧げられた日々とその献身に対して心から感謝すると共に、その喜びにあずかり、且つ今後の御活躍を願うものである。

銀祝を迎えられる諸師は次の方々である。
ジェラルド・ボーンレイ管区長(メリノール)
ジェームス・ゴールマン副管区長(メリノール)
ゴードンバンバーン修道士(メリノール)
サビエル・イラオラ管区長(エスコラビオス)
フランソア・アラール師(ヴィアトル)
又ノートルダム学園をはじめ教育事業に専念していられるノートルダム教育修道女会でも、次の方々々が誓願銀祝を祝われる。
シスター・メリー・キャサリン皆福(女子学院院长)
シスター・メリ・ジョゼフ続木(大学音楽担当)
シスター・エリザベス・マリー石田(養成担当)
シスター・マーグリット塩田(小学校長)

▽七月二十七日(㊦)二十九日(㊧)
京都教区中学生錬成会
於・メリノールハウス
テーマ・「信頼」

▽七月二十九日(㊨)三十一日(㊩)
京都教区高校生錬成会
於・洛星高校宗教研究室
テーマ・「自分を知る」

▽八月十六日(㊪)十八日(㊫)
N・C・K(日本カテキスタ会)研修会
於・大津場浜荘一労働会館

▽八月二十三日(㊬)二十五日(㊭)
高校生活動指導者研修会
於・キリスト教研修所・地塩苑(熱海)



教区短信

▽八月二十五日(㊮)二十七日(㊯)
神学生の合宿
対象・神学生及び一般青年男子

▽八月二十六日(㊰)二十八日(㊱)
隣青連トレニングキャンプ
於・北白川教会

▽九月四日(㊲)
堅信式 於・園部教会

▽九月五日(㊳)
司祭評議会定例総会
於・河原町カトリック会館六階

福祉を通して福音の証しへー 汚れなき聖母の騎士 聖フランシスコ修道女会

四日市「聖母の家」に二重のよろこび

社会福祉法人「カトリック京都司教区カリタス会」(理事長田中健一)の精薄児施設「聖母の家」(施設長Rサーン師)はかねてよりシスター達の応援を切望し、聖母の騎士修道女会と交渉を重ねていた。このたび同会の犠牲的協力によって先づ二名のシスターを去る5月20日に迎えることが出来た。



メリノール会の熱意と関係者各位の協

指導を担当する職員たち、その中にシスター達が新らしく加わってくれたことは創立10周年に最もふさわしいプロジェクトであったといえよう。

尚、聖母の騎士修道女会は、福者マキシミリアン・コルベ師の意向にもとづいてミロハナ師(コンベンツアル聖フランシスコ会)によって一九五〇年に長崎に設立された邦人修道女会である。現在百

数十名の会員をもち、長崎、福岡、東京教区に15の本支部修道院がある。特に長崎では「みさかえの園」を経営し、精薄弱児、重症心身障害児(2)、精薄者更生施設など、この分野における専門的事業を通じて福音の証しを続けている。この「みさかえの園」には皇族がたも機会あるごとに見舞に立ち寄られる。

メリノール日本管区総会終る

去る五月二十三日～二十六日まで、滋

賀県唐崎メリノールハウスに於いて、日本

で働いているメリノール会司祭、修道

士の日本管区総会が行われた。日本の各

地から集まった会員は、会の事業と方針

を検討し来年の行動目標を左記のように

決定した。尚会期中には「布教」誌のレ

ンソン師による「信徒使徒職」及び札幌

教区司祭元東京大神学校校長田村師による「メリノールと日本の教会」の講話があった。続いて次の行動目標を決めた。

行動目標

(一)我々の小教区が自分で考え自分で生活を支え自分で発展していくよう努力集中する。

(二)地域のリーダーの育成にもっと努力

を集中する。

(三)非キリスト教徒への直接の宣教を強調する。

(四)メリノール会員と教区の教会とのコミュニケーションを発展させる。

(五)現在及び将来の小教区の仕事の中で基礎共同体を作りあげることに努力する。

(六)貧しい人々、疎外されている人々の活動に新たな重点をおき、こうした人々の苦しみを柔らげようとしている人々に協力することに努力を集中する。

(七)非キリスト者の間で今までと違った形の布教の試み始める。彼らの全人間的成長に重点をおき、何よりも苦しい人達に働きかける。(以下省略)

力のもとに四日市に開設された「聖母の家」は今年創立10周年を祝い、同時にシスター達の着任を仰いで二重の喜びに溢れている。

「聖母の家」には現在6才以上の男女精神薄弱児一、二四名が収容されており、生活指導のほかに小学部・中学部の学園を併設して教育指導をも受けている。

精神障害とたたかう子どもたち、その

<p>各種損害保険のご契約は おまかせ下さい</p> <p>損害保険の引受・危険管理指導</p> <p>日本損害保険協会 } 公認特別総合資格</p> <p>安田火災所属 江渕昭義</p> <p>電話 (075) 593-7028</p>	<p>タイプ・活版 } 各種印刷 オフセット }</p> <p>今道印刷</p> <p>〒602 京都市上京区天神筋一条下 ル下堅町152 電話(075)463-6024番</p>	<p>地域環境に調和した ユニークな都市創りをめざして</p> <p>金山工務店</p> <p>本社 大阪市東区内淡路町1丁目2番地 電話 942-5461番(代)</p> <p>滋賀支店 滋賀県大津市皇子ヶ丘1丁目2-3 電話 24-1816番(代)</p>
--	---	---

あせびセンター落成

平城ニュータウン

東に春日山、南に生駒山を仰ぐ自然に恵まれた平城ニュータウンにあせびセンターが5月22日に落成し多くの司祭、修道者、地域の人々の参列のもとに田中司教による祝別式もとごおりなく終り、現在活動を開始している。すでに5年前から善きサマリヤ人会のシスターが巡回文庫を開いたり、主婦や子供達に英会話を教えて予備宣教をしていた。用地内の集会所での文庫や英会話サークルは文化



活動の域を越えることはできなかったが現在あせびセンターは教会ではないけれども、今までの活動を定着させ、充実させるために役立っている。又この地域に住む信徒の活動と祈りの場としてキリスト共同体を作りつつある。自分の持っている良いものを分かち合い、互いに学び合うことをモットーにして、ジュースの講習会、ゆかたの講演会、お話の会等、からし種のように小さなものから始まっ

て、秋には、「現代の健康」をテーマに婦人セミナーを予定している。宗教活動とまではいかないが新約聖書の研究や、旧約聖書の朗読会も行っている。英会話サークルに集まる子供達には少しずつ宗教的な話や賛美歌を習う時間を持っている。様々な可能性を持ったあせびセンターがここに集まる人々の心にキリストの愛を伝えていくセンターになるように祈りた

希望の家では児童館

京都市南区の児童を持つ家庭から強い要望が出ていた児童館が、南区東九条岩本町「希望の家」に設けられ、希望の児童館として四月二十三日午前十時から開館式が行われた。

この児童館は、希望の家援助会員の方々、教会関係から折あるごとに寄せられた尊い義援金、メリノール宣教会、京都市からの多大な援助などによって、従来の児童保育所を改造して出来上ったものである。この改修工事に伴って、より有効に希望の家が地域のために利用されることを強く望んでいる。

児童館とは、児童が自由に来て遊んだり、読書したり、工作したり、歌を歌ったりして、健全な心身をほぐくみ、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とする施設である。対象は、小学生と中学生で、平日は放課後から五時まで、土曜日は午後四時までとなっている。子供達の健全な憩いの場となるように、多くの方々の協力と援助を切に願っている。

「唐崎教会」誕生

今迄「見世教会」と云う名で呼ばれて来た教会を改名し司教様の了承を得て「唐崎教会」と改名する事に決定した。これは見世と云う地名がごく限られた数軒であり知名度も低いためである。信徒達は新しい名のもとに新たに生れ変わった覚悟で発展に励む決意である。

シスターたちの

ハイキング

聖体祝日にあたる六月十二日竜安寺のウイチタ聖ヨセフ修道院に京都教区内の各修道会から集まったシスター方は四十三名、共に献げたミサの後、聖体行列、ベネディクションがあら、それぞれのたずさえたお弁当を開きながら交歓を深めた。その後足に覚えのあるシスター方は昼食後近くの山をハイキング、短距離グループは竜安寺の拝観を楽しみ再び修院に会し共に祈りレクリエーションに興じる等、各修道会間の親睦を深めることができた。

CBS全国指導

司祭会議

去る六月六・七の二日間カトリックポイスカウト指導司祭会議が協議会発祥の地河原町教会で行われ、教会とCBS団との関係が失くなりつつある現状について討議された。

広告についての御案内

時報に広告掲載を希望される方は、編集部までご連絡下さい。掲載は原則として、1ヶ年毎の契約(年6回発行)とし、1回当りの掲載料は10,000円です。

京都市中京区河原町三条下ル
カトリック会館5F 教理センター内
京都教区都報時編集部 TEL 075(211)3768



総合建築・土木

コンクリート工事全般

河村建設株式会社

京都市中京区河原町通夷川上る指物町320の2
電話(京都075)231-1137~9

各地壮年活発な動き (京都南)

(三重)

南壮連人生観

シリーズ

人生観シリーズの第一回は上智大学教授の安斎伸氏によって六月十二日に「人生の生甲斐を求める」をテーマに行われた。安斎先生の話は意味を失なっているといわれている現代の人間社会の中に生きている一人一人が、どうすれば社会に飲み込まれずにそれを乗り越えられるかについての示唆に富む話で参加者に考えさせるものが多かったようである。

自分の属する社会、家庭や職場の中で一人一人が自分でなければできない使命すなわち愛と忍耐をもって、他に与えることこそ生甲斐であると強調された。

第二回は六月二十六日小林有方司教による「人生の冒険」のテーマで講話があった。大正末期に京都の西陣教会で主任司祭をしておられたことのある小林司教は流れるようなさわやかな話術で人々に深い感銘を与えられた。今回の話は、ご自分のお姉さんが信者でないお医者さんと結婚し若くして、御主人と子供を残して亡くなられた後、ご主人が教理の勉強をして、洗礼を受けられ、誰よりも熱心な信者になられたという一つの魂が他の魂をゆり動かしたエピソードをもとにして、話を進められた。一般市民を対象にした講演会であったが小林司教の名前を

聞いて馳せ参じた信者の方も多く、すべての参加者の心を深くゆり動かす素晴らしい講演であった。

三重県カト・壮年大会

去る六月二十六日①鈴鹿教会において三重県カトリック壮年大会が開かれた。県下より七十名の出席者の他京都司教代理として村上真理雄師、京都南壮連より二名の代表者及び滋賀県より一名の代表者を迎へ、当日の講演者である名古屋教区の野村師の司式のミサで共に祈ることから大会の幕は落とされた。

野村師の講演のテーマは「布教の方法をさぐる」で、教会と言えような建物もない地域に宣教を命じられた野村師の体験から組織のための活動ではなく福音宣教のために必要な組織でなければならず、又今名古屋教区で試みられている「聖書研修コース」についての話等興味深い内容であった。

又分科会は三つに分かれて行われ内容は次のとおりである。

(一)プロテスタントの教会との交流による布教——鈴鹿教会が行なっている鈴鹿市キリスト教協議会を通じての映画会、音楽会による活動と将来への展望

(二)伝道集会による布教／司祭の常任しない津南、久居教会の行なっている、講

師を招いての講演会や各種催しものによる伝道集会の成果と反省

(三)奉仕活動による布教——伊勢教会の行なっている慈善バザー、献血運動、施設奉仕等による奉仕活動による成果と反省

以上分科会の上記を全体会議で取り上げ更に討議し壮年が教会の中心となつて布教活動を行ない信徒使徒職の召命に応じなければならぬとの認識を深めた。

南壮年連合会も

京都府南部カトリック壮年連合会が、

五月二十九日①午後二時より河原町教会地下大ホールで、田中、古屋両司教の臨席のもとに第九回定期総会を開催して、昭和五十二年度の活動方針と事業計画及び役員人事を決定した。

活動方針として京都府及び滋賀、奈良三重の各壮年会組織との連携の強化、プロテスタントとの連携、講演会の開催(人生観シリーズ等)を通しての活動の領域の拡大、南壮連創立十周年の記念行事のための準備委員会の設立等があげられた。尚当日は滋賀県カトリック連合会、

報恩寺、高津、高雄、大和八木、各教会三重県カトリック教会連絡協議会より、それぞれ代表者が来賓として出席し、なごやかな交歓会も持たれ意議のある総会を終了した。

お知らせ

カトリック・ボランティア

・スクール

テーマ 「主婦の時間の転機」

対象 主婦一般

期間 九月二十一日①～十一月一日①

(毎週水曜日午後一時～三時半)

参加費 三千元

定員 四十名

詳細はウイチタの聖ヨゼフ会、シスターヴァージニアまで

皆さん どうぞ!!

各教会でバザー

◎伏見教会

八月二十八日① 午前十時～午後四時

・不要品、贈答品販売・飲み物・福引き

◎九条教会

九月四日① 午前十時～午後三時

・食堂・手芸品販売・ガラクタ市

◎衣笠教会

九月十五日① 午前十時～午後三時

・展示会(テーマ「心のふれあい」)

・模写店・抽選会

◎大和郡山教会

九月十八日① 午前十時～午後二時

・母と子のゲーム・飲み物

(小教区の予定表を返送くださった教会のみ取り上げました。まだ返送くたさない教会は至急お送りください)

各活動団体指導司祭任命さる

村上真理雄師司教総代理に

先に教区司祭の人事移動が発表され、各諸師は新しい赴任地で司牧活動に入られたが、同時に司教は各委員会担当司祭を任命し発表された。之は小教区を超えた活動であるため聖職者信徒の方々の協力が望まれる。

各担当司祭は次の通りである。

司教総代理 村上(真)師
 教区事務主任 松本(秀)師
 宣教・司牧 教区事務所
 社会(①) 教区事務所
 教会行政・法制 東門師
 教理(②) パリゾー師
 典礼 東門・藤堂師

神学生養成 村上(真)・藤堂・滝野師
 修道女連盟 田中司教
 広報 村上(真)師
 信徒使徒職 松本(秀)師
 教育(③) ナドー師
 エキュメニズム 東門師
 国内信徒移動 滝野師
 海外移住 岡師
 要理教育(④) 教区事務所(教理センター)
 青少年司牧 東門師
 諸宗教 西野・滝野・松本(秀)・近藤
 ツーシエット・カーティ
 ザーン・ルーニー師

カトリック学校連合 カトリック幼稚園連盟
 カリタス・ジャパン 正義と平和
 LM(レジオ・マリエ) SVP(ビンセンシオ)
 JOC(カト労働者連盟) CBS(ボーイスカウト)
 CLC 齊木師
 JCN A(カト看護協会) 西野師
 JCM A(カト医師会) 東門師
 教区NCK(カテキスタ会) 教区事務所
 カトリック学生連盟 松田師
 親交会(聖職者の父兄家族会) 岡師
 南壯連(京都南部壮年連合会) 岡師
 南婦連(京都南部婦人連合会) 村上(真)師
 信仰弘布会 松本(秀)師
 児童福祉会 松本(秀)師
 聖書週間 村上(真)師
 カトリック保育園協会 岡師
 教論研究会 山田師
 フランシスコ第三会 丸山師
 祈禱の使徒会 丸山師

教理センター「アネックス」祝別式

六月十日、仁王門通りに新しく完成した、京都カトリック教理センターアネックスの祝別式が、田中司教を迎えて行われた。この日、お祝いにかけつけたのは教区及びメリノール会関係者、各県の司祭、シスターやカテキスタ、日頃からセンターの活動を助けている信徒など三十名余りであった。式は聖歌で始まり、司教が各部屋を祝別され、その後、設計建築関係者に感謝状が送られた。来賓の

挨拶として、司教から「広い意味でのカテジスの活動を望む」、又ゴールマン師(メリノール会副管区長)から「スタッフのより深い一致が活動の基礎となるように」との言葉があった。それに答えて、ヘーシベック所長から、「皆様の御支援を」と挨拶があった。
式後、祝賀パーティがあり、なごやかな雰囲気の内には閉じられた。

司教の足どり (六～七月)

6月

- 1 マリスト会代表と面談
- 2-3 日本女子修道会総長管区長会に参加(横浜)。聖母訪問会本部

5 ①西院教会堅信

6 司祭評議会(三条)

7 聖心のウルスラ会管区長来訪

10 京都教理センター別館祝別

12 ①桃山教会堅信、南壯連代表と懇談

13 教区修女連準備委

16 小さい姉妹の友愛会総長と面談

19 ①九条教会堅信、好善社(救らい)理事長来訪

20 教区付司祭月例会(長岡)

21 WCRP 諸宗教の集い(三条)

22 こひつじの苑代表と面談

24 精華教会信徒団と面談

25 上野教会、名張教会訪問。二雲カトリック児童園訪問

26 ①松阪教会堅信、南勢カトリック特別養護老人ホーム堅信

30 聖母の騎士修道女会代表来訪

7月

1 ザビエルハウス(茨木師)訪問

3 ①奈良登美丘教会堅信

4 教区付邦人司祭月例会(三条)

8 聖母被昇天修道女会管区長来訪

9 マリア会管区長(諸宗教)来訪

10 山科アヴェマリア幼稚園

10 ①田辺教会堅信

13-15 宣教司牧司教委(箱根)

「考え方」は教育といわれる事柄のうち、大きい位置を占めるものです。親や先輩、先生の考え方に影響されず、大きくなったものはありません。

人は過保護と温いぬるま湯につかっている必要のあるのはごくまれで、常は人の心、精神、考えて築くためには、ぬるま湯ではいけないのです。信仰も「なまぬるい故にはさすてられて」——なまぬるいとは正しい強さと、節度の不足から正しい愛が育たない事をさします。鍛える事の中に信仰も育ちます。真実に対して忠実であること。これは教育の中核である筈です。人間の成長に一番大切な真実は、「神の国とその義とを先ず求めること」であることを決して忘れてはいけません。



狂会と ならないために

— 復習も予習も自分で求めることをしない生徒が、生徒らしくないし、生徒らしくならないのと同様に、教会の主日にも求める心なしで信者は正しい学びのキリストの弟子とは言えません。学校で学んだ身につけたものを、日常使われない生徒は、何のための勉強かと言われるのと同じく、教会での教えを日常の実行に習熟しなければよい弟子にはなれないのではないのでしょうか。

浅田年生(園部教会主任)

(園部教会報「おとすれ」より抜粋要約)

教区時報に園部教会を紹介する様に係り方から仰せつかりうれしくお引受致しました。教会の本質からして、皆様も我が事の様に心配して下さっているに違いない、日頃の御無沙汰をおわびしつ、元気にやっていますことをお伝えし、親しみのある方には更に、無縁感の方には親戚意識をと希っております。

小教区の頁

敷地約170坪、内40坪進工業KKの研究所、10坪府道に接して専用駐車場。火打谷園



園部教会

園部教会は20坪。前庭は近所の幼児の遊び場、聖体行列に最適、町内の踊り会の会場にもなれば、葬儀・冠婚・夏休みの里帰りの人々のよい駐車場として皆に用いられる。昔、好意と感謝で植えられた桜は、彼岸、染井吉野、嵯峨、八重と約一ヶ月の花見。春一番の白モクレン一対は、レンギョウの黄色と共に冬の重さを快く吹き飛ばす。六月のちらほらホタル、夏の蝉、ウグイスと鳥、夜のふくろう。秋の観月会。狐も庭を走り、ボクサー犬アキの眼が輝く。

塔の十字架ネオンとクリスマスマスの美事なツリー飾りは、通勤者、通行人の国道九号線の楽しみの一つとか。『はっとする』と云う。「NHKあの街この町」が教会庭の新町大踊りも紹介してくれたのも記憶に新しい。私の着任以来、秀れた信者男子大学生の協力で英数学習会を通して、地域の学生及び家庭と接する恵あり。現在小学生から高三まで毎日二クラス以上顔を見せる。欠席の時は事前に電話又は言伝での連絡をとるのが唯一の約束。数学は元高校教師の主婦と府大生(予習会)に土日を中学生お世話願っている。

毎日楽しい。芝刈機を使って労働する時は特に楽しい。青少年がやがて自分での人生の意義を見つけてくれる時までの付き合いであり、信仰の恵が植えられるよう私にとつて祈りと態度修業が何より大切。求道者の道である。1972年春、こひつじの苑が小教区内に創設され、現在司牧上、園部小教区に属し、着実に事業を重ねていただいでいて、肌で拱理を感じる。同苑の援助会にも当小教区から月10万円を信者未信者共々寄付しつ、けている。信徒数約200。担当は船井部一円、約58万坪人口約10万人(園部町は1460人)。将来とも日本でのカトリック土着のための勉強の地。山陰線・国道の改良運動が実現すれば、当地区も大きく姿を変える。その時、人と和の園部の都づくりに神の国を入れるか否かは今の我々に課せられていると大切な処、時を痛感する昨今である。信者らしい町民、又よき他宗の習慣を身につけている努力する人々がキリストの真実

に開眼されるまでの先駆者的、生みの苦しみの時なのである。町の有志の方と園部教育会を通して話す場も福祉施設老人ホームやこひつじの苑での要理の場も、作物づくりと同然、細心の注意と愛情のうち聖寵(生長)を賜う神の御手にゆだねられている。皆様も理解の上、祈りと協力を待ってお示し下さい。

1977後期行事予定

7月初より聖堂植及び塔修理工事。

8月夏期合同追悼ミサ、墓地整掃、墓

参、夏の大通り、サマー・スクール

9月4日①亀岡と合同堅信式

10月30日①献堂記念を祝い亀岡綾部福

知山報恩寺舞鶴山国の諸教会とミサ

聖体賛美、行列を行う。御参加下さい。

い。時報をかりてお願いいたします。

11月23日献堂24周年感謝。冬期慰霊祭

12月クリスマス子供ミサ。新町区の子

供会三回ミサ文聖歌練習後参加。例

年130名程信者と共にミサ出席。

施設○聖ドミニコの宣教修道女会修院

○聖家族女子高等学校 シスター

○聖家族幼稚園 経営

○重度身体傷害者施設こひつじの

苑—京都司教区福祉法人カリタ

ス会経営

入苑者52名内信者男子6名女子6

名・職員35名信者19名

追伸。京都南部の最北端。従って北部

の方々との連絡を大切にしたいもので

す。不足の点、本文ともども、おわび

いたします。

読者の頁「タマス」途上

主任司祭

寺西 弘教

夜遅くなってから再び激しく降り始めた雨に、天気はまだ見離されたかという思いがあった。

翌六月十二日は、桃山教会の「みこころパーティ」と称する創立記念パーティである。例年、六月の第一日曜日であるが、十二日に堅信があるので、初めてお迎える田中司教様を囲んでの「みこころパーティ」となった訳である。ところが、はからずも、それが主任司祭の村上真理雄神父様の歡送パーティ（送別パーティにあらず）と主任司祭村上透磨神父様の歡迎パーティを兼ねることになった。この日の早朝、なお降り続いていた雨も何時しかやみ、堅信が始まる頃には教会の庭も完全に乾き、前日、雨の中で張ったテントが快い日陰をつくっていた。

それにしても、今度の異動は、正に晴天の霹靂であった。桃山教会の創立者である前主任司祭のヒューズ神父様の場合、異動は早くから予想でき、信徒の動搖に對する手当もできた。それでも、一年前から真理雄神父様が着任された第一日目から大騒ぎをしたのは賄さんがいないというところであった。神父様の食事を持ってくる人、神父様が飢え死にされていなかと見舞い？にくる人、夜となく、昼となく教会には何人も人が集った。一方、主任司祭を含む財務委員会が発足し

た。「司祭の生活費が少な過ぎる」「教会で働く人の給料が低過ぎるのは正義に反する」「無いものは出せない」いわゆるボスのいない桃山教会では卒直な発言が多く、喧嘩ごうごうということも珍しくないが、意見が出つくすと、簡単に妥協するのが常である。しかし、維持費の増額を訴えたり、教会行事の計画、予算の編成などなど、初めてのことばかりで運営のルールも確立しておらず、時にはトラブルもあり、この一年間は神父様とともに、苦勞したなあ！という感が深い。

さて、これからという矢先だけに心が残る。しかし、専任の司教總代理とあつてはやむを得ないという諦めのような、何かもの憂い気持があつた。

それが、思わぬ晴天に恵まれて、パーティも信徒の心も弾んだ。各テーブルの上には婦人金丹精のご馳走が山と積まれて食べ放題、帰りがけにお志を箱の中へどうぞ！という桃山式パーティである。飲み且つ食べながら各グループの出し物や、パザールの競り売りに盛大なヤジがとぶ（主として壮年連中の）。

巷間、桃山教会はインテリが多いと、あらぬ噂が伝えられている由であるが、もし司教様のお耳にそれが入っていたとしたら、インテリと思いきし紳士は一人二人、野武士の如き桃山の壮年連中を目のあたりにして、見ると聞くとは大違ひと思われたに違ひない。

さて、後日談だが、その後の新任司祭はといえば、もう何年も前から桃山の主任司祭という感じである。お人柄のせ

いなのか、前主任司祭と御兄弟というせいなのか、それとも第一日目から賄さんがいたせいなのだろうか。（桃山教会）

日曜学校と私

飯尾 悦子

洗礼を受けてから一年余りしかたつていない私が、日曜学校の委員をお引き受けしましたのは、自分自身の勉強になるだろうと思つたからです。河原町のカトリック会館で五回にわたつて行われた要理教育刷新セミナーに、私は四回ほど参加させていただき、本当にいいお話を聴くことが出来たとよろこんでおりますが、これも日曜学校に関係を持ち始めたことがきっかけとなつたのです。お話の中にあつた子供達への語りかけの前に、私自身が神の恵みの対象であり、神のみ心を受けとめているか、神のいつくしみに信

頼しているのかどうか、又態度によつて神を語つているか反省させられることばかりです。

私は私なりに理解して不安な気持ちで子供達と日曜学校で逢いました。一人一人に「いつ神様のお恵み（愛）を感じるの？」と聞きました。「食べるのも着るのもこの世の中の物全部そうや。」と答える子供。「あの子と友達になりたいと思つてお祈りしたらかなえられた。」「お母さんの病気の時神様に一生懸命お祈りをした。」「困つてお友達のためにお祈りをした。」という子供達。まだまだ沢山遠つたことを話してくれましたがどれ一つを取つてみても、それは生きた言葉として私には忘れることができません。

日曜学校は私が子供達に教えらるるひとときです。神様どうか、この子供達がイエズス様のみ心であるお互いに愛し合う人間に成長することが出来ますように。（奈良教会）

「タマス」途上 欄投書規定

この欄は信徒の皆さんの自由な建設的意見、また欄内「時報文芸」には皆さんの創作和歌、俳句、詩、その他漫画、イラスト等を紹介するものです。ふるつてご投稿下さい。

- ▽六百字内
- ▽匿名不採用
- ▽住所、氏名、所属教会、年令、職業郵便、電話番号明記
- ▽原稿は返却しない
- ▽添削することあり。

◆ 「小教区の真」欄は「うち、隣の神父さん」を通し「家族同志」（私たちは皆家族である）、「仲間同志」（私たちは皆仲間である）であることをたしかめる欄でもあります。また「南蛮寺説法」は神父様方の説教台からでは聞けないためになるお話を紹介する欄でもあります。ご期待下さい。

芽生え

— 京都教区五十年をふり返って

古屋義久

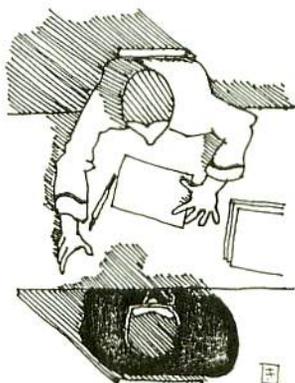
戦争前後、軍部の圧力はすでに宗教団体にも加わっていました。例えばプロテスタント教会が、教団として認可され活動するために、三十三宗派が集まって、「日本キリスト教団」を作ったのもそのためです。

カトリック教会でも当時修道会の長はフランス、カナダ、スペイン等すべて外国人宣教師で、司教も日本人は土井東京大司教と山口長崎司教の二人だけでした。教団として認められるために「長」はすべて日本人にするようにとの達しがありまったく突然の話で非常にとまどいましたが私も三十九才の若さで京都教区長に任命されました。

太平洋戦争の勃発は、教会にも、外国人司教にも、また私にも大きな試練でした。メリノール会の司教もほとんどが追放となり、当時、京都に残った外国人はパーン師と同志社大学のデンドン女史だけでした。パーン師は高野教会で軟禁状態にあり、誰にも会えない生活を送っておられました。私は夜遅く、特高の眼を盗んで差し入れを持って行ったりしたものです。

私への取り調べは、開戦の翌日十二月九日に早速ありました。朝、憲兵が来て

連行されました。所持品を調べられた後長く待たされ、やっと取り調べが始まりました。私を尋問した准尉は物腰の柔らかな人で、他の軍人のような威圧的な態度ではありませんでした。この人には忘れ難い思い出があり、この人の一言が、戦争時代の迫害に対して、私への大きな励ましとなりました。その取り調べの時



私はこんな所まで連行され、尋問される理由がなかったのです、その不満を彼に述べました。すると、准尉はそれに対して怒るところか、こう言ったのです。

「あなたが信じてるキリストさんの迫害に比べたら、こんなこと何や言うんや。」
私は、その言葉を聞いて驚きました。そして、自分の言葉を恥じ、このキリス

トを信じていない一人の准尉から教えられたことを、しつかりと心に刻みました。

しかし、取り調べがいつも、こんな「感動的」なものであったわけではありません。むしろ、敵意と偏見に満ちたものでした。敵国の宗教だというので、スパイ扱いを受けていたのです。説教集も沢山あったのですが、書類は皆、検閲を受けるので書かなくなりました。もつと馬鹿らしかつたのは写真の検閲でした。例えば、東京神学校の火事の写真を持っていったら、空襲にやられている写真をアメリカに送るのだらうと云われたり、今から考えれば、笑い話のようなものも沢山あります。

その他、教会もやはり監視されていたようです。信者たちは、大津教会の人たちが取り調べを受けたようなことを聞きました。特に軍部からの監視があったわけではないでしょう。でも日常生活では、敵国の宗教を信じているということで大変だったかもしれません。それに、伏見と彦根教会、瀬田のさざなみ荘が不審火で焼けたのもこの頃でした。

このようにして戦争時代は苦難の時であり、司教も私一人だけだったので大変でした。そんな中で、昭和二十年八月十五日終戦を迎え、敗戦の悲しみと信仰の自由が与えられる喜びの内に、新しい時代へと移っていくわけです。しかし、それからの教会の歩みも、決して楽なものではありませんでした。

つづく

(題字も古屋司教)



時報が対話
の手段なら
おう」書く
者も読む者
も、投稿者
も「互いに
心を開けあ
も編集者も

◆タイトルをつけるのも問題。司教銀婚式？と書こうと笑われる。でも真面目に司教は教会と結婚したと云う神秘家めいるのですぞ。慣れたのか前回より能率的に編集完了。「なれ」が「だれ」にならぬように頑張りたいと思う。(M・T)

◆コンチキチンのうちにこちら編集もチン。互いに大いにハッスルしながらもM師を中心に笑いの絶えない編集共同体。主のくびきは負いやすく主の荷は軽い(Y)

◆夏の雲がおいしそうに青空を食べていきます。ボクはスイカを食べ、枝豆と冷奴でビールを飲みます。夏は山へ海へと楽しい季節です。そして、この時報も楽しいものになればと思います。(亜)

◆原稿を読み乍らぶつくと一人言のM神父。聞いていると笑えて笑えて、これでは全く仕事にならない。原稿の山と格闘している間に梅雨あけ宣言。電話の彼方では歯切れのよい浅田節。(K・N)

◆夏休みとはいえキャンプ、研修会と教会つ子は忙しい。でもそれぞれの場でキリストとの新鮮な出会いがあればと願う。51号では夏休み特集を計画しています。

傑作な写真を添えてあなたの夏休みのレポートを九月五日までお送り下さい(O)